

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22
防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp
中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp
情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp
☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

ホッと通信

教育・文化

僕が小さいころ、スリランカで一番有名な日本人男性といえは、みんなが口をそろえて「ブルース・リー」って信じていました。彼が主演の映画を見に行つては、細い身体で、大男を投げ飛ばすシーンをほかんと口を開けて見たり、自作のヌンチャクを振り回し、自分の頭に当てて血を

民やんたのやまぐち日記

⑦

流したりしたものです。そんなわけで、日本に来て成し遂げたい夢の一つに格闘技を学ぶことがありました。京都でまた学生のころ、アルバイトの新聞配達をしている道沿いにある道場の門をたたいてやっとかなえられました。すばらしい先生と仲間に恵まれて、空手のことをたくさん学びました。先生は「出

手に持たぬ美学 和の心

空手に教えられたこと



イラスト・石井彩子

世払いでいいよ」と、僕からは月謝を一銭も受け取ってくれませんでした。すばらしい日本の文化を学んだ僕は、いつかお返しをしたいと思ひ始めました。山口の大学での仕事が決まったのはそのころでした。入学時のオリエンテーションで女子学生の多さに圧倒され、少し小さくなっている男子らとしゃべっていると、誰からとなく

「空手クラブをつくらうよ」という声が出て、すいすいと言がまとまったのです。僕も一応、空手四段と指導員と審判員の免許を持つていたことが役に立ち、新設なのに大学で一番大きいクラブになりました。みんな忙しい中、週二回の練習を頑張った甲斐あって、県大会で入賞する仲間も出ました。空手部の活動が評価され、就職活動がうまくいった学生もいました。みんななすこく成長しましたが、一番変わったのは僕かもしれません。京都時代、ブルース・リーのよつに自分が強くなったと思ひこみ、いつも肩で風を切つて歩いていました。拳をわざと傷付けて周りを威嚇したり、最初は道場に通うと、胴着や黒帯

を見せびらかしていました。腕の節に少し自信があつて、けんかを売られたら買うだけでもなく、こつちから売ることもありました。

- 一杯両手の荷物の数を当りぬ 越水 幸子
- 沿線の家並み縫いゆく電車より束の間みゆる横向きの犬 谷野 裕子
- 交差点に止まれば空の明かるかり角の野菜屋壊されていつ 越智 治子
- 磯の香を伴ひながら風渡り疎林に笹のさざめき止まず 木辺 陽子
- レットルをはがさむとして手控へぬ手前の顔はそれだけのもの 弘兼 安雄
- ◆山口市合同短歌大会 入賞作品
- 【講師者選】
- ◆最優秀賞 友と二人並びて座る土手の上冬さくらとふを眺めてをりぬ 寺本きよ子
- ◆優秀賞 汲みおきしバケツの水に今朝薄く風紋残す水は降りしきる今宵の雪は積るらん夕辺の畑にて大根とりこむ 岡山 孝子
- 陸橋はとり払われて見馴れたる町にかあーんと冬の空あり 林 睦子
- ◆佳作賞 職辞す日秋空あおぐ夫の肩重しのいたか浮くかに見ゆる 松永 良子
- 小さくてかたい蕾のバラは咲き開かずおわる太きつぼみよ 中島千恵子
- 亡き夫の好物でありし玉子焼を今日も娘の弁当に入れる 平田 牧子
- ◆特別賞 鼻の穴大きと言はれし其の日より私は毎日の鼻
- りご)を生み がいのちなり 終章はいつの かなる心にあ 憶ふ日 独り身の不思議 送りつつ夫逝 ととせを経ぬ
- ◆由宇町文 会 冬の海漁舟や 雨降りて人影 冬浪の飛沫浴 廃船を打つ波 挽き残す鳥の 柿 冬日和漁舟浮 話しんと電 人を呼ぶ声 冬の海満ち幸 寒雀来よとて 庭 嬬やかに寄 海 雨 冬の海煙れ 雪五寸右往左 前つしる交 焚き火 姑と嫁はず

初風呂や四